

4/22 「玉川上水と生物多様性」シンポジウムアンケート結果

予想をはるかに超える入場者数でした。用意したアンケート用紙 100 枚、戻り 55 枚、アンケート用紙は全員の方に行き渡らずご迷惑おかけしました。

◎参加者は

小金井市内 17 (30%)、市外 38 (70%) <内訳：小平 7、武蔵野 5、杉並 4、三鷹 3、国分寺 3、練馬 3、東村山 2、世田谷 2、以下 1 (国立、東久留米、立川、調布、八王子、羽村、青梅、横浜) と、広域からの参加者が多く、今まで語られてきた、玉川上水の歴史や文化だけでなく、生物多様性への関心の高さを物語っているように思いました。

◎何を見て？ <朝日新聞 16、チラシポスター 15、小金井市報 10、アサココ 8 > など。

◎シンポジウムの感想

<良かった 22、とても良かった 22、普通 5 (内、普通と悪かったに○が 1 名) > 良かったと感じてくれた人が圧倒的でした。

◎貴重なご意見

たくさんのご意見の中から少しだけをご紹介します。

「玉川上水は人工的なものですが、多摩の山の生物を武蔵野の原野に橋渡しする貴重な役割を果たしていること。小金井桜の並木の復活は非常に微妙。非常に有意義なシンポであった。これを受けて私たちも議論を始めたいと思う」。

また、「シンポジウムに非常に刺激された、是非『水と緑』のテーマでイベントを考えてみたい」との感想や、「小金井緑の基本計画」、『第 2 次小金井環境基本計画』を例にとった、貴重なアドバイスも頂きました。会として今後要望書を出していきたいと思います。講師の方からはシンポ終了後に「玉川上水の生物多様性保全は、今後東京がどのような都市を目指すのか、という事と連動している問題です」とのコメントを頂きました。これらの大きな反響を、今後の活動に活かして参りたいと思います。



新里達也さん：環境問題は目先の事だけではダメ。100 年先を見据えることが大切。



坂田昌子さん：生物多様性は生き物の物語。10m 間隔では山桜にとってものツライものがありますね。



小泉武栄さん：地球は元来多様なもの。自然の歴史の中で“場の多様性”を考えることが大事です。

5/19 玉川上水の自然観察会に 23 名参加

森林インストラクターの大石征夫さんの案内で、玉川上水の側道を平右衛門橋から境橋まで歩きました。花の少ない時期でしたが、緑地（柵の内側）部分の現状を見ながら、植物、昆虫、野鳥などの説明や、それらのかかり方を解説していただきました。

緑地の貴重さを考えることができました。身近な緑道が生物多様性にとって重要であると再認識する機会となりました。

<参加者 H さんからの感想>花の少ない時期であることをお聞きしていましたが、植物の名前を教えてくださいだけでもとても楽しく、その名前の由来や他の生き物とどうつながっているのかを少しずつ知ることができ、期待以上に興味の湧いてくるものが多く、時間があっという間に過ぎてしまいました。お話を聞きながら玉川上水を歩くことは本当に楽しいですね。金子みすゞの詩や和歌を織り交ぜてください、これが私にはとても印象に残りました。



金子みすゞの詩を手に説明する講師の大石さん。



夏日にもめげず熱心にメモを取る参加者。←スッポンに遭遇。後足で穴を掘っていたので、産卵のため土手が上がってきたのでしょうか。

メモを取る市内在住の田中肇先生 ↑ (フラワーエコロジスト) 詳細は HP に